

第5回那須烏山市総合政策審議会 協議概要録

日 時：平成29年7月4日（火）午後3：00～

場 所：烏山庁舎2階 第4会議室

[会議次第]

1 開 会

2 会長あいさつ

3 協議事項

【協議】(1)地方創生関連交付金事業の効果検証 …資料番号 1-1、1-2

(2)第2次総合計画第1部基本構想（素案）について

①まちの目指すべき姿 …資料番号 2-1、2-2

②政策の基本方向 …資料番号 3

(3)市民憲章策定について

4 その他

5 閉 会

<資料>

- ・1-1 地方創生推進交付金事業評価
- ・1-2 地方創生加速化交付金事業評価
- ・2-1 訂正後 まちの目指すべき姿
- ・2-2 訂正前 まちの目指すべき姿
- ・3 政策の基本方向
- ・4 市民憲章策定について
- ・参考 第2次総合計画と現総合計画 基本構想比較表

[出席者]

(審議会委員) 中村会長、松本委員、佐藤委員、八木沢委員、久郷委員、棚橋委員、両方委員、網野委員、矢口委員、田島委員、町田委員、江口委員

(総合政策課)

両方参事兼課長

秘書政策グループ:齋藤主幹、高野課長補佐、櫻井係長

(総務課)

福田総務課長

行政グループ:大谷主幹、佐藤主査

[協議概要] ○:委員 ⇒:事務局

ー協議(1) 地方創生関連交付金事業の効果検証ー

■『JR烏山線沿線まちづくり推進事業～七福神プロジェクト』について

- 「駅からハイキング」を見習い、自転車を利用した「駅からサイクリング」のような企画を実施できないか。自転車であれば、まちづくり研究会で制作した「現代版烏山線鉄道唱歌」に唄われる場所を全て巡ることも可能。狭い範囲ではなく、地域資源を広く活用する取組を考えるべき。
- 「今後の展開・方向性」にある「30～40代の女性層をターゲット」とする根拠はなにか。より幅広い世代をターゲットにしたほうが良いのでは。
⇒マーケティング調査、ワークショップ等の結果から、来訪に伴う大きな効果が期待できる、お金を使う消費者層である、家族や知り合いなど大人数で来訪する等の傾向を踏まえたもの。
- 「今後の展開・方向性」にある「グローバル人材育成」について。具体的にどのような人材を育成することを目的としているか。
⇒これまでガイドクラスを設けて実施していた英会話教室について、高校のカリキュラム・時間等との調整を図りながら、若い人から年輩の方まで広く英語を学べる環境を充実させ、外国からの観光来訪者に対するおもてなしができる人材を育成しようとするもの。
- JR烏山線は本数が少ないため、外国からの来訪者にとっては乗り遅れなどで不便が生じる可能性がある。そうした際の音声案内ガイドの駅への設置など、24時間体制で対応できるシステムなどJR烏山線を活用した事業の中で整えるべき。
- ガイドの方達の烏山に関する歴史などの知識向上に努めてほしい。

■『ローカルベンチャー育成事業』について

- 「地域おこし協力隊」導入の最終的な成果・目標を明らかにすべきではないか。
⇒自治体の補助なく、メンバー達が自分自身で、中心市街地の空き店舗等を活用しながら起業することを最終目標としている。
- 「地域おこし協力隊」に関する予算が付いている3年間のうちに、起業に関する検討だけにとどまらず、例えば、起業の専門家である金融機関と連携し、メンバー達が起業できるベースを作っておくことが大事ではないか。
- メンバー達は起業に向け、今後3年間の収入・支出の見通しや、最終的な形態等の事業計画を立てた上で取組を行っているのか。
⇒起業に向けて、メンバー達は民間団体や企業法人等の開催する研修を受けている。その中で、将来的な起業のあり方について学んでいる段階である。研修内容が事業計画にまで踏み込んだものかどうかは把握していない。
- メンバー達の起業マインドを促し、金融機関の起業計画等とのマッチングを図りながら進めていくことが重要である。
- 起業のみならず、メンバー達3人がこの地で結婚し、子どもを生んでくれることに期待している。

■『ジオパーク構想推進事業』について

- 秋田県では高校生がジオパークのガイドを行っているとの新聞記事が掲載された。那須烏山市においても、ジオパークに関するこれまでの中学生の取組が評価されている。高校生にもガイド等でどんどん関わってもらおうと良い。

○山あげ祭に関するプロジェクトについては、地方創生の話として複数の課が事業を担当しているが、「ジオパーク構想」に関しては文化振興課頼みの活動となっている。実際には事務局が機能しておらず、5月以降は会議も開催されていない状態。庁内の総力を挙げた対応に努めてほしい。

○「K P I（重要業績評価指標）」の「事業に参画する団体数」について。成果実績の11団体の中には、実質的に活動を行っていない団体も含まれている。実の部分の成果を上げるため、事務局からも協力を働きかけてほしい。

○ジオパークの解釈があまりにも広いため、自分との関わりが分かりにくく、どこか他人事のような印象を受けてしまう。身近なレベルで市民とジオパークとの繋がりが理解でき、周囲に浸透させていくような仕掛けが必要ではないか。例えば、イベント開催の際にジオパークのロゴマークを表示させるようなこと。

⇒ジオパークについては、まちづくりツールの一つとして位置づけ、貴重な地層・露頭などの地形を上手く活用していきたいというのが本質にある。全ての地べたがジオパークであり、烏山城をはじめ、山あげ祭・いかんべ祭など、そこで営まれる人々の活動全てがジオパークであると捉えることができる。那須烏山市では教育を基軸とした取組を考えている。市内の小学校6年生には校外学習でジオパークを経験してもらい、将来的にはガイドとしての活躍や、来訪者などの交流人口増加にも繋げていきたいと考えている。

○ガイドの増員に向けては、ジオガイド養成講座による対応のみならず、他事業による観光ガイド育成プロジェクト等との連携を図りながら進めてほしい。街なか観光、ジオパークともに案内できるガイドが増えれば、おもてなしの力も強化される。

○「事業実施上の課題」にある「必要とされる専門員の確保」について。専門員とは、ジオパークに関する説明を行う自然科学的な知識を持つ人を指すものか。専門員が不足しているという状況は初めて知った。

⇒地形・地質に関する造詣の深い方を募集していたが、なかなか見つからない状況であった。現在は専門員が一人、鹿沼市から通ってくれている。

○今回、日本ジオパークへの認定が見送られた原因はなんだったのか。市民に対しても理由を明らかにしたほうが良いのではないか。

⇒日本ジオパークネットワークに加盟するには活動実績が物を言うが、審査委員会において、那須烏山市全体をジオパークとするには市民の活動が十分ではないとの指摘を受けた。評価された特徴は、10年程前の中学校の部活動からジオパーク活動が始まったという点。但し、現在のジオパークは国立公園や国定公園に指定されているような場所が大半である。里山・里川をテーマとする那須烏山市でジオパーク加盟を目指すのは非常に厳しい。一方で、ジオパークはまちづくりのツールとして非常に有効なものとなる。地方創生の事業に認定され、事務局においても推進室を立ち上げたところ。今後、どのような方向でジオパークを打ち出していくのかが大きな課題となる。

○ジオパークの活動が一番活発な場所はどこか。

⇒日本には世界ジオパークに認定されている場所が、洞爺湖有珠山や阿蘇をはじめ8箇所ある。なお、現時点では、日光市をはじめ県内他市町でジオパーク認定を目指した動きはない。県立博物館の学芸員の方達も、那須烏山市のジオパーク構想に積極的に協力してくれている。

■『下野の国二大祭×2市=まちの賑わい無限大プロジェクト』について

○今年の山あげ祭にはかなりの来客数が見込まれることから、暑さ対策として、エアコンの効いた

休憩所だけでなく、熱中症や体調を崩された方達に応急処置を施せるようなブースの設置、手当のできる看護師の配置などを行う必要があるのではないか。

⇒医師会やボランティアとの協力による急病人の受入対策が今後の課題である。

○山あげ祭は街なかの広いエリアを舞台が移動して行う特殊性から、通常のお祭りのように特定の場所に救護スペースを設け、救急救命士や看護師を配置することが難しいのが現状。涼をとるための休憩所については案内チラシに掲載している。

○近年では熱性けいれんを起こす子ども達が少なからずいる。症状は体や活動の状態によって様々に異なる。きめ細かな対策ができるよう検討したほうが良い。

○有償ボランティアで看護師を募集すれば、ある程度の人数は確保できるのではないか。

○来年度からは、祭が運営しやすくなるよう新たな実行委員会が立ち上がる予定。看護師の配置等について予算が計上される可能性もある。

■『スポーツを核とした地方創生推進事業』について

○「ツール・ド・とちぎ大会」の開催にあたっては、例えば、コースに沿った細い道にも一人ひとりスタッフを配置する必要性などから、相当に経費がかかるとの話を聞いた。あまりお金をかけないで開催する、節約のための取組も必要ではないか。

⇒地方創生加速化交付金を活用した県全体でのイベントであり、平成29年度・30年度の開催は既に決定している。

○通過地点である那須烏山市での経済効果は果たしてどの程度のものだったのか。

○自転車レースは道沿いに見えても一瞬で目の前を通り過ぎてしまう。経済効果を狙うのであれば、レースを広範に見渡せる高い場所・ポイントに、来訪者向けの出店を開くことなどが考えられる。

○行政主導によるイベント成功の事例もあるが、熱い意欲を持った個人が、少ない人数であってもイベントを立ち上げていくことが大事である。

■『とちぎ材需要創造戦略事業』について

○現在では、那須烏山市と八溝材は馴染みが薄く、認知度も低く感じるが、歴史的にこの辺りは材木の産地であり、以前は材木屋も多く立地するなど経済的に盛り上がっていた。

○山の手入れを行っている森林組合との連携や、住宅建設への八溝材の活用なども期待したい。

○ジオパークと林業・八溝材等との連携を進めるべきである。

－協議(2)第2次総合計画第1部基本構想(素案)について－

■『まちの目指すべき姿』について

(「まちの目指すべき姿」の訂正後内容について審議会委員一同の了承を得る。)

■『政策の基本方向』について

(「政策の基本方向」の内容について次回以降の審議会にて協議の旨了承を得る。)

－協議(3)市民憲章策定について－

(総務課にて市民憲章策定について説明、市民憲章原案の内容について次回以降の審議会にて協議の旨了承を得る。なお、市民憲章策定に関する次回以降の審議会の開催スケジュールや協議内容等については、改めて総合政策課・総務課にて調整を図るものとした。)

以上